



## システム MTU の設定

- [MTU について \(1 ページ\)](#)
- [MTU の設定方法 \(2 ページ\)](#)
- [システム MTU の設定例 \(4 ページ\)](#)
- [システム MTU に関するその他の関連資料 \(4 ページ\)](#)
- [システム MTU の機能履歴 \(4 ページ\)](#)

### MTU について

イーサネットフレームで受信し、すべてのデバイスインターフェイスで送信されるペイロードのデフォルトの最大伝送ユニット (MTU) サイズは 1500 バイトです。

### システム MTU 値の適用

次の表では、MTU 値の適用方法を示します。

表 1: MTU の値

設定	system mtu コマンド	ip mtu コマンド	ipv6 mtu コマンド
スタンドアロンスイッチまたはスイッチスタック	<b>system mtu</b> コマンドはスイッチまたはスイッチスタックで入力できます。この操作はすべてのポートに影響を与えます。  指定できる範囲は 1500 ~ 9198 バイトです。	<b>ip mtu bytes</b> コマンドを使用します。  範囲は 832 ~ 1500 バイトです。  (注) IP MTU 値は、適用可能な値ですが、設定できません。	<b>ipv6 mtu bytes</b> コマンドを使用します。  指定できる範囲は 1280 からシステムジャンボ MTU 値 (バイト単位) までです。  (注) IPv6 MTU 値は、適用可能な値ですが、設定できません。

IP または IPv6 MTU 値の上限は、スイッチまたはスイッチスタックの設定に基づき、現在適用されているシステム MTU 値を参照します。MTU サイズの設定に関する詳細については、このリリースのコマンドリファレンスで **system mtu** グローバル コンフィギュレーション コマンドを参照してください。

## MTU の設定方法

### システム MTU の設定

スイッチドパケットの MTU サイズを変更するには、次の手順を実行します。

#### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Device> <b>enable</b>	特権 EXEC モードを有効にします。 <ul style="list-style-type: none"><li>パスワードを入力します（要求された場合）。</li></ul>
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>system mtu bytes</b> 例： Device(config)# <b>system mtu 1900</b>	(任意) すべてのギガビットイーサネットと 10 ギガビットイーサネットのインターフェイスの MTU サイズを変更します。
ステップ 4	<b>end</b> 例： Device(config)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<b>copy running-config startup-config</b> 例： Device# <b>copy running-config startup-config</b>	コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。
ステップ 6	<b>show system mtu</b> 例： Device# <b>show system mtu</b>	設定を確認します。

## プロトコル固有 MTU の設定

ルーテッドインターフェイスのシステムMTU値を上書きするには、各ルーテッドインターフェイスでプロトコル固有の MTU を設定します。ルーテッドポートの MTU サイズを変更するには、次の手順を実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b> 例： Device# <b>configure terminal</b>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>interface interface</b> 例： Device(config)# <b>interface gigabitethernet0/0</b>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<b>ip mtu bytes</b> 例： Device(config-if)# <b>ip mtu 68</b>	IPv4 MTU サイズを変更します。
ステップ 4	<b>ipv6 mtu bytes</b> 例： Device(config-if)# <b>ipv6 mtu 1280</b>	(任意) IPv6 MTU サイズを設定します。
ステップ 5	<b>end</b> 例： Device(config-if)# <b>end</b>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	<b>copy running-config startup-config</b> 例： Device# <b>copy running-config startup-config</b>	コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。
ステップ 7	<b>show system mtu</b> 例： Device# <b>show system mtu</b>	設定を確認します。

## システム MTU の設定例

### 例：プロトコル固有 MTU の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet 0/1
Device(config-if)# ip mtu 900
Device(config-if)# ipv6 mtu 1286
Device(config-if)# end
```

### 例：システム MTU の設定

```
Device# configure terminal
Device(config)# system mtu 1600
Device(config)# exit
```

## システム MTU に関するその他の関連資料

### 関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
この章で使用するコマンドの完全な構文および使用方法の詳細。	<i>Command Reference (Catalyst 9300 Series Switches)</i> の「 <i>Interface and Hardware Commands</i> 」の項を参照してください。

## システム MTU の機能履歴

次の表に、このモジュールで説明する機能のリリースおよび関連情報を示します。

これらの機能は、特に明記されていない限り、導入されたリリース以降のすべてのリリースで使用できます。

リリース	機能	機能情報
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	システム MTU	システム MTU は、スイッチのすべてのインターフェイスで送信されるフレームの最大伝送ユニットサイズを定義します。

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォームおよびソフトウェアイメージのサポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> [英語] からアクセスします。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。